小型海水　魚の飼育に　TRY（トライ）して　みよう

海水魚を飼ってみたい！でもうまく維持できる自信がない。そもそもお金はどれくらいかかるの？何を準備したらいいの？はじめに気になる疑問を解決しよう！

予算別飼育スタイル

水槽サイズが大きくなるほどコストはかかりますが、水量が多い分水質が安定するので、飼える魚の匹数や種類の幅が広がります。

●費用はできるだけおさえたい
30cm、45cm 水槽でフィルターなどをセットした場合、約 2 万円程度。カクレクマノミ 2〜3 匹ならこれで十分！

●3〜5 万円以上
最もポピュラーな 60cm 規格水槽で、ライトとフィルターを設置した場合、約 3〜5 万円に。

●10 万円以上
強力なろ過槽（オーバーフロー水槽）や照明、クーラーなどを購入できるので、魚よりも難易度難易度の高いサンゴまで飼育可能に。

水槽はどこに置く？

OK

・電源（コンセント）が近くにある。
・水道（キッチン・浴室）が近くにあると便利。
・水平な場所（専用の水槽台、もしくは強度が十分な台）

NG

・過度に暑くなる / 寒くなる部屋
　→水温の維持はかなり重要なポイント！一般的な種類であれば、空調や、水槽用ヒーター / 冷却ファンを使用して 25℃付近を維持して飼育可能だよ。
・直射日光があたる窓辺。
　→水温が変化したり、コケが生えやすくなるよ。
・電子機器の近く。
　→塩ダレ（塩分が固まってできる結晶）により故障のおそれが！

準備するもの

●人工海水
人間用に使う食塩ではだめだよ。魚に必要なミネラル分が補強されている人工海水を使おう。

●比重計
塩の濃度を計るのに使用するよ。中に海水を入れて針が振れるタイプが簡単だよ。

あったら便利！

プロテインスキマー
プロテインスキマーは、水中のタンパク質を細かい泡と一緒に除去する装置で、海水中での適性が高いアンモニアの発生を抑えます。

殺菌灯
水中内で浮遊している菌を殺す働きがあり、いろいろな病気やコケを抑える効果があるだけでなく、色素や有機物を分解するので、ろ過の補助にもなってくれます。

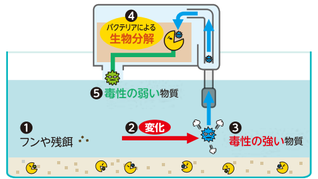
水槽をセットしよう

※照明について
サンゴやイソギンチャクを育てる場合は、充分な光量が必要です。
基本的に必要な光の波長は 400-500nm です。

長生き　させるコツ

「キレイな水」を保つことが、長生きのコツなんだ。
水はフンや尿、残餌から**透明の毒性が強い物質**が発生して、少しずつ「危険な水」に変わっていくんだ。
だから「生物分解・水替え」によって「キレイな水」を維持しよう。

水をきれいにするしくみ（ろ過について）



物理ろ過：フンや残餌など大きなゴミをマットで集める。
生物ろ過：フンや尿、残餌から発生する**毒性の強い物質**をろ過バクテリアが毒性の弱い物質に生物分解。

新しいろ材の注意ポイント

ろ過バクテリアが少なく、毒性の強い物質が増えやすいので「エサを減らす」「活性炭（雑菌を抑制）」「水替え」で対策をしよう。また**ろ材が新しいと有機物が増えやすく白ニゴリしやすいよ。ろ材を洗わずに 2 - 3 週間くらい経過すると、ろ過バクテリアが自然発生して水が透明になるよ。**

カーボンパック
異ばみやニオイを強力に吸着。2ヶ月間維持。

ブラックホール
カーボンパックよりも深く複雑な細孔構造を持つため、大型魚や匹数の多い水槽ではより効果を発揮します。

水替えについて

毒性の弱い物質もたまると有害なので「水替え」をして除去する必要があるんだ。水が透明でも水質が悪化していることが多いので、マメに水替えをしよう。

液体カルキ抜き
カルキ抜き成分がない人工海水のときにおすすめ

頻度：2〜3週間に 1 度
水量：1/3〜1/2
水　：温度、比重を合わせた人工海水
※ろ材はろ過バクテリアが棲んでいるので、捨てる水槽の水で軽く洗う程度にしよう。

水質が安定しないときは

水槽内ではミネラルと微量元素が不足しがちになるんだ。これらが不足すると魚はいろんな障害を起こしてしまい、病気にもなりやすいので各種添加剤を入れよう。サンゴ飼育の場合は特に重宝するよ。

エサの種類に気をつけて

エサは種類によって、スプーン 1 杯の重さが違うんだ。フレークから顆粒に変えるときは、与えすぎによる残餌で水が汚れ、体調を崩すことが多いので注意しよう。

重さ 8g のかさ比較

《フレーク》　《顆粒》

初心者向けの魚種紹介　スズメダイ・クマノミ・甲殻類

まずは安価で手に入りやすいスズメダイ・クマノミの仲間、甲殻類からチャレンジしてみよう！色鮮やかな種類が多いので、自分のお気に入りを見つけてみてね。

デバスズメダイ (5cm)
海水魚の入門種といえばこれ。群れで泳ぐのを一度は見たことがあるかも。安価で飼育も簡単だよ。

シリキルリスズメ (5cm)
ソラスズメダイという種類に似るけどシリキの方が黄色の境目がくっきり。同種で喧嘩することもあるよ。

ルリスズメダイ (5cm)
青の発色が美しい種類。驚くと黒っぽい色に変化して落ち着くと青に戻るよ。オスメスでヒレ先が違うんだ。

カクレクマノミ (7cm)
大ヒット映画で皆おなじみの海水魚。体をくねくねさせながら泳ぐ姿が可愛らしいよ。小さい間は群れを作ることが多いが、次第にペアになっていくよ。

ブラックオセラリス (7cm)
カクレクマノミの突然変異によって生まれた改良品種。個体によって黒色の濃さがさまざま。

ハナビラクマノミ(6cm)
体全体が薄いピンク色が特徴のクマノミの仲間。クマノミ類は皆、性転換（メスからオスに変化）するよ。

キャメルシュリンプ
赤と白の美しい模様が特徴。背中がラクダのコブのように高くなっていることから「キャメル」という名がついたよ。

スカンクシュリンプ
魚の体を掃除するクリーナーシュリンプとして有名だよ。動物のスカンクのように背中に白い筋があるよ。

キンチャクガニ
イソギンチャクをハサミで掴んでいる小型のカニ。近づいた時の威嚇ガ、ポンポンで応援してるように見えるよ。

ハゼのなかま

ハゼの仲間は主に沿岸域で爆発的な種分化を遂げ、魚類の中でも最大級の種数を誇るんだ。その数は 2,000 種以上に及ぶよ。その中でよく流通している種類を紹介するよ。

ハタタテハゼ (8cm)
海水魚入門種のひとつ。ピンと立った背ビレが名前の由来。臆病なので出てくるまでは時間がかかることも。

ミズタマハゼ (10cm)
エラ蓋の青い水玉模様が美しい、サンゴ礁に棲む底生ハゼ。砂を口に含んで濾しながら餌を探すよ。

オトメハゼ (8cm)
白い体にオレンジ色のラインが美しい底生ハゼ。ミズタマハゼ同様に、砂を口に含んでエサを食べるよ。

共生ハゼ

ハゼの中には、テッポエビ類と巣穴でともに暮らす"共生"を行う種類がいるんだ。あら目のサンゴ砂を敷いておくと、テッポウエビが穴を掘って巣を作る様子を観察できるよ！ハゼはそこに棲まわせてもらう一方、目が甚と見えないエビの代わりに周囲を見張っているんだ。

ギンガハゼ (8cm)
その名の通り、体表に星空のような水色の斑点があるよ。イエローの個体がよく流通するけど、グレーの個体も存在するんだ。

ニチリンダテハゼ (6cm)
白い体にオレンジの帯がきれいな種類。第 1 背ビレは大きな円型で、そこに黒くてれい模様があることで、他の種と区別ができるよ。奄美大島や沖縄にいるよ。

ヒレナガネジリンボウ(8cm)
お祭りでよく売られていた「ねじり棒」ガ名前の由来。共生ハゼの中では比較的小さい種類で、その名の通り背ビレが長く伸びるよ。